

## 「2024年国立台湾大学スプリングスクール派遣報告書」

京都大学経済学部2年 大熊 祐輝

- ① 私は第二外国語で中国語を選択していましたが、正直なところ試験直前に単位取得のために勉強していただけでした。また、留学したい、海外で働きたいという思いも全くありませんでした。しかし、二回生で外国語の単位を揃えた後は第二外国語を学び、活用する機会が無くなるのはもったいない、さらには二年間の中国語学習の締めくくりにあふさわしいと思いこのプログラムに参加しました。三週間という短期間ではありましたが、自分の視野を広げ、成長する濃密な日々を送ることができました。言語能力の向上はもちろん、現地の学生や京都大学以外の日本全国の大学生や大学院生、更には欧米の学生など、普通の生活では出会えない人たちと交流し、高めあえたのは非常に有意義で貴重な体験だと思いました。また、私は大学での勉強に全然身が入っていなかったが、このプログラムで出会った人たちから強い刺激を受け、言語の学習はもちろん大学での学習全般にもっと積極的になろうと思いました。
- ② 私は台湾を含めて海外には旅行で数回訪れたことがあるのですが、ここまで長期間母国語が通じない環境に身を置くのは初めてでした。英語も中国語も、あれだけ日本で勉強したにも関わらずいざ話そうと思うと言葉に詰まることが多々あり、コンビニでちょっと物を買うだけでも大変でした。しかし、折角台湾に来たのだから、英語に頼らず中国語を話すことを心がけていました。分からない単語のピンインを調べて実際に使ってみることで、三週間という短い間ではありますが、発音できる文字を街で見かけることが格段に多くなったと実感しました。また、交通や生活習慣など、日本では当たり前だと感じるものが当たり前ではない場面に多く出会いました。昨今の日本では日本国外出身の人を見かけることも多くなってきたため、国によって当たり前とされることは異なることを理解しておくことは非常に重要だと感じました。
- ③ このプログラムの内容は大きく分けて二つでした。一つは中国語の語学学習、もう一つは台湾の文化学習です。中国語の語学学習は初学者から上級者までレベル別に分けられたクラスで主に平日の午前中に実施されます。易しいクラスは英語と中国語での授業、難しいクラスでは中国語のみの授業でした。京都大学で学ぶ中国語は簡体字なので、台湾で使われている繁体字に困惑するかもしれませんが、日本の漢字に近いものが多いです。また、午後には国立台湾大学の学生チューターと交流する日もあり、学んだ中国語を実際に話すいい機会になりました。チューターさんと一緒にご飯に行ったり、おすすめのお店を聞いたりすることで、ネットで調べた旅行では体験できないような台湾での生活を送ることができました。文化学習は座学のものと同体験型のものがありました。座学は台湾文化に関する英語講義を聞き、レポートを書きます。個人的にはこの座学で英語能力の壁を感じて苦労したのですが、英語を学びなおすいい動機になりました。体験型は大学でものづくりをしたり、遠くまで出かけたりしました。体験型の文化学習では同じプログラムに参加する人たちとの仲を深めることができ、思い出になりました。
- ④ 今回のプログラムに参加するまでは普通に学部を四年で卒業して就職しようと考えていたが、このプログラムを通して、自分の進路についてしっかりと考え、もっと国際的なプログラムやイベントに参加してみようと思った。三週間という短期間で成長を実感できたのだから、長期留学では目覚ましい成長を遂げることができるだろうと思った。しかし、より大きな成長を遂げるにはより多くの事前準備が不可欠であると痛感した。就職した後はまとまった時間の確保が難しいと思われるため、学生のうちにもう一度英語圏または中国語圏に短期留学、可能であれば数か月単位の長期留学に挑戦してみたいと思った。